

国内建設向けの木材需要は3年連続の減少も 木材自給率は55.3%と大幅に増加

建築用材としての木材需要は3年連続の前年度比マイナスの見込み。国内需要が減少するものの、輸入量も大きく減り、結果として木材自給率が55%と大きく増加した。

国土交通省が「令和6年度主要建築用材需要見通し」を公表した。セメント、生コンクリート、砕石、木材、普通鋼鋼材、アスファルトの主要6資材の需要見通しをまとめたもので、セメント、生コンクリート、普通鋼鋼材は前年度を上回るものの、木材は775万m³（前年度比1・6%減）を見込んでいる。

木材は、国内メーカーの製材品出荷量を対象とし、建設以外の量も含み、製材用素材として外材も含む。近年の需要をみると、21年度の12・1%増から一転し、22年度が同6・4%減、23年度が同7・2%減と2年連続で減少してきた。24年度は減少幅は小さくなるものの、依然、前年度比マイナスが見込まれている。

一方、先に林野庁が発表した「令和5年（2023年）木材需給表」によると、木材の総需要量は7985万3000m³で同6・1%減。前年に比べ用材が同12・0%減と大きく減少した。内訳をみると、国内消費の製材用材が2156万3000m³、同17・0%減、合板用材が728万m³、同24・1%減とともに大幅に減少した。

こうしたなかで建築用材等の自給率が上昇している。これは国内生産

が減少したものの、輸入量がそれを上回る減少となったためだ。建築用材の木材自給率は55・3%と前年の49・5%から5・8ポイント上昇と高まった。製材用材は56・3%、同7・0ポイント増、合板用材は52・3%、同2・3ポイントの増加である。

用材の木材自給率は1960年には86・7%であったものが急激に減少、1999年には19・2%と2割を割り込んだ。ただ、2002年を底に緩やかに回復を続け、2015年には3割台に戻し、回復傾向を続けている。

木材自給率の動向

		令和5年	令和4年	対前年増減量 (千m ³)	対前年比 (%)
		数量 (千m ³)	数量 (千m ³)		
建築用材等	国内生産	16,176	17,849	△1,673	90.6
	輸入	13,088	18,234	△5,146	71.8
	総需要量	29,264	36,083	△6,819	81.1
	自給率	55.3%	49.5%	5.8ポイント	—
製材用材	国内生産	12,267	12,937	△670	94.8
	輸入	9,5523	13,326	△3,803	71.5
	総需要量	21,790	26,263	△4,473	83
	自給率	56.3%	49.3%	7.0ポイント	—
合板用材	国内生産	3,939	4,912	△1,003	79.6
	輸入	3,565	4,908	△1,343	72.6
	総需要量	7,474	9,820	△2,346	76.1
	自給率	52.3%	50.0%	2.3ポイント	—

出典：林野庁「令和5年 木材需給表」